

自己評価報告書

令和3年度 日本橋中学校 自己評価報告書	
学校名：中央区立日本橋中学校	所在地：東京都東日本橋1-10-1
校長名：平野 雅仁	生徒数411 学級数12 教員数22 職員数27
<p>1 重点目標の達成状況及び取組状況</p> <p>重点目標1 「確かな学力の定着と向上」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価指標『『わかった』『できた』の楽しさを感じながら、主体的に学び、問題を解決する力を付けさせているか』 → 肯定的な回答 生徒91.6% 保護者75.5% 教員90% ・評価指標「基礎的・基本的な学力を身に付けさせているか」 → 肯定的な回答 生徒89.9% 保護者74.7% 教員80% <p>分析：生徒の肯定的な意見と保護者の肯定的な回答が離れている現状が見受けられ、コロナ禍により授業の様子等を保護者の方に参観していただく機会が少なくなったことが想像される。また、授業の中での満足度だけではなく、家庭での反復学習を促し、学力向上が結果として表す必要性を感じる。教員は現状に満足せずやるべきことがあるという思いのもと、前述の質問対し、否定的な割合が10%と20%となった。現状に満足せず、生徒の学力向上に努めていきたい。具体的な取組としては、中央区の研究奨励校として問題解決型学習の研究を進め、授業実践を行い、「わかった」「できた」という楽しさのもと、主体的に学ぶ姿勢を授業の中で引き出していきたい。また、授業での取組と共に、タブレットのアプリ活用しながら、家庭における反復学習を促し、基礎基本の定着を深めていきたい。</p> <p>重点目標2 「豊かな人間性の育成」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価指標「道徳や話し合い活動や命と心の授業等の機会を通して、多様な価値や生命の大切さ考えさせることができますか。」 → 肯定的な回答 生徒94.9% 保護者85.5% 教員100% ・評価指標「・・・委員会活動等を通して、社会貢献やボランティア精神の育成を図る。」 → 肯定的な回答 生徒79.8% 保護者86.3% 教員85% <p>分析：コロナ禍において、対面での話し合い活動が制限される中ではあるが、オンラインの活用方法を工夫し、距離を取りながらも話し合い活動を活発に行うことができた。生徒たちは、他と交わることにより多様な価値感を感じつつあると思われる。また生命の大切さ考える題材を取り上げることにより、生徒の思いの深まりを感じている。これからも多様な価値感に触れ、生命の大切さについて、道徳教材や様々な時事問題を取り上げながら、自らの意見を深めていく展開を目指していきたい。また、その様子を今年度は実施することができなかった道徳授業地区公開講座などを通し、保護者の方に参観していただく機会を設けていきたい。また、後述の質問に対しては、昨年度よりボランティア活動等行えることが増えてきており、肯定的な回答の数値は上昇しているが、まだまだ通常の活動ではない。より活発な活動を目指し豊かな人間性の育成につなげていきたい。</p> <p>重点目標3 「心身の健康の増進」</p> <p>評価指標「学習発表（運動の部）や、オリンピックにおけるベトナム選手への応援メッセー</p>	

ジ、トーチ巡回等を通して、運動への興味・関心を高め、健康の保持・増進を図ることができているか。」

→肯定的な回答 生徒 82.8% 保護者 75.1% 教員 80%

評価指標「職業調べ、進路説明会、知床財団の環境保全の講演会等を通して、自らの生き方や将来を考える機会となっているか。」

→肯定的な回答 生徒 90% 保護者 76.7% 教員 95%

分析：開催自体が危ぶまれた運動会は、学習発表（運動の部）とし、従来より縮小した形となったが、行うことができ、その達成感が生徒の肯定的な回答に結び付いたと思われる。東京 2020 オリンピック・パラリンピックにおいては、ベトナム選手への応援メッセージを送ることができ、日本のみならずグローバルに世界に思いを馳せ、オリンピック・パラリンピックに臨むことができた。東京 2020 オリンピック・パラリンピックに開催後に行われたトーチ巡回等において、子供達の興味関心を高める機会となり、スポーツに関する関心を高め、今後もオリンピック・パラリンピックレガシーとして、この取組を子供達の心に残していけるよう展開をしていく。

- ・自らの生き方を深めていく「未来につなぐ生き方講演会」を対面と ICT（タブレットリモート）を活用し行うことができ、職場体験学習は残念ながら中止となったが、職業調べなどを通し、自らの生き方や将来を考える機会とできた。来年度はぜひ職場体験学習を行い、子どもたちが自らの生き方を考える機会をより充実させていきたい。

2 重点目標以外の自己評価における達成状況及び達成のための取組状況

保護者の評価で肯定的評価の割合が 80%を超えた項目は、

- ① 通知表等を通して観点別評価により適切に評価をしている。(81.9%)
- ② 学校は、生徒の努力を認め励まし温かく接している。(86.3%)
- ③ 生徒は明るく生き生きと生活している。(89.2%)
- ④ 生徒の健康・体力の増進に努めている。(81.5%)
- ⑤ 規範意識が高く、思いやりの心が育っている。(90.5%)
- ⑥ 人権を尊重する姿勢で指導している。(82.7%)
- ⑦ 保護者にとって連絡や相談がしやすく適切に対応している。(88.3%)
- ⑧ 安全対策に様々な配慮を行っている。(89.2%)
- ⑨ 学校行事を通して学習の様子や生活がわかるようにしている。(80.3%)
- ⑩ 保護者に出す文章や連絡等はわかりやすく適切である。(89.1%)
- ⑪ 保護者が教育活動（面談、行事）に参加しやすいように工夫している。(81.1%)
- ⑫ 保護者に対する言葉遣いや対応は親切丁寧である。(97.6%)

と 20 項目中 11 項目あった。また、80%以下の項目の昨年度との変化を見ると、

- ① 学習内容がわかりやすく工夫された授業をしている。
(69.5% わからない19.3%) (昨年度 84.1% わからない7.1%)
- ② 個に応じた指導を行い基礎学力が身に付くように教えている。
(67.1% わからない15.3%) (昨年度 86.4% わからない2.6%)
- ③ 生徒は地域の行事やボランティア活動に進んで参加している。
(47.8% わからない22.1%) (昨年度 86.7% わからない5.2%)

- ④ 生徒の問題や悩みに、トラブルなどを見逃さずに相談にのり指導している。
(71.5% わからない20.1%) (昨年度 84.9% わからない6%)
- ⑤ 地域と家庭との連携や協力体制を取り、地域の学校として機能している。
(76.3% わからない19.7%) (昨年度 63.3% わからない13.2%)
- ⑥ タブレットを充分活用している。(68.3% わからない16.5%) (昨年度 項目なし)
- ⑦ 図書館や蔵書の充実に努めている。(51.8% わからない38.6%) (昨年度 項目なし)
- ⑧ 保護者は学校の教育活動に積極的に関わっている。(61.8% わからない14.5%)
(昨年度 62.6% わからない12.4%)

と8項目あり、いずれの項目も「わからない」という回答の割合が昨年度より多く、肯定的な割合を減らしている。コロナ禍において、学校の様子を参観する機会が減った状態があり、それを補う情報発信ができてないことが、結果よりうかがえることと共に、質問の文言を回答しやすく整理する必要性を感じている。

また、①②に関しては、今年度から導入となった一人1台のタブレット端末の活用が優先され、個に応じた指導の充実が遅れた背景があるように思われる。来年度は、重点目標1の分析でも記述したように改善をしていきたい。⑥に関しては、タブレット端末の活用に学校として試行錯誤の状態があった。今年度も実績のもとより有効な活用方法を構築して、タブレット端末を学力向上のための有効なツールとしていきたい。

情報発信の手段として、今年度途中で Classroom 等が活用される形となり、まだ全保護者の方への周知が徹底できていない面があった。学校からの発信においても、家庭学習に取り組む上でも Classroom の活用をより周知していきたい。

3 今後の改善方策

(1) 問題解決型学習実践、ICT を活用した基礎・基本の定着、学力の向上

- ・研究推進を通し、子どもたちが「わかった」「できた」の楽しさを感じながら、主体的に学び、問題を解決する力を身に付けさせていけるよう、授業実践を展開していく。その上で、より有効なタブレットの活用を目指し、ドリルパーク等一人一人の学習状況(スタディログ)に応じ、基礎・基本の学力の定着を図っていきたい。

(2) 学校評価の在り方の改善

- ・今年度は、保護者に ICT を活用して回答をお願いした。初めての取組であったのと、コロナ禍の社会的にも厳しい1月の回答時期と重なり、昨年度より回答状況が10%ほど減少した。どのような状況であっても保護者に学校に関心をもってもらうよう情報を発信し、また、学校評価の意義を適切に理解していただくよう働きかけていきたい。また回答の中で「わからない」という回答が多かったことから、教育活動の意味付けや価値付けを周知し、保護者に学校の様子を理解していただき、学校評価において回答をしやすくなるよう、年間を通して取り組んでいきたい。